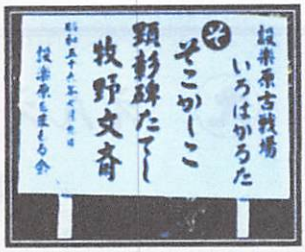
【武田勝頼公指揮の地の石碑】



㊀ 甲田の地名　・甲田橋南 八束穂 宮脇

あわれに言い伝う

・【武田勝頼公指揮の地の石碑】は、平成5年7月11日に、山梨県大和村特産の甲州鞍馬石の自然石で造られ、武田勝頼公顕彰会により寄贈されました。会長は当時の大和村平山村長です。

・勝頼は、武田軍の中央隊で指揮しました。隣には大将の武田勝頼を守り、壮絶な戦死を遂げた内藤昌豊公之碑が【武田勝頼公指揮の碑】を見守るように仲良く並んで建立されている。

【武田勝頼公指揮の地へのタイムスリップ】:碑面の確認

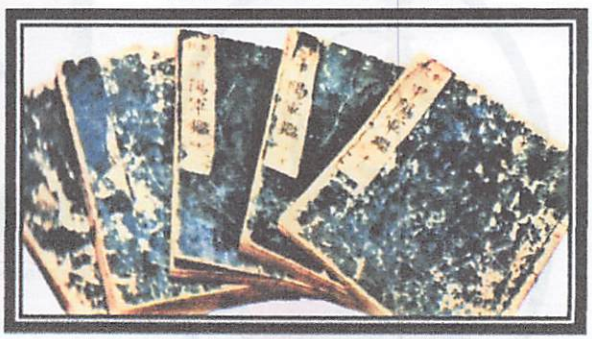
場所　新城市八束穂字天王:天王山公園奥

・天王山には、大きな柴山の上に、陸軍大将土屋光春書の【招魂碑】:大正5年4月30日建立と、太平洋戦争中の戦死者を祀るお墓が、武田勝頼公指揮の碑の裏側に在ります。

【諏訪法性の兜】は、武田信玄が愛用したヤクの毛皮で飾られ獅子をイメージした兜で、遺言で息子の武田勝頼に送られたものです。【長篠・設楽原の戦い】に持参した記録が、武田軍の軍記『甲陽軍鑑』に記録があります。設楽原の決戦に敗れた武田軍の初鹿野伝衛門は、敗走の中で疲れ果て大事な【諏訪法性の兜】を畑の中に落とした、後から来た小山田弥助がこれを見つけて、持ち帰りますが、それほどまでに武田軍は、疲労困憊の撤退を余儀なくされた逸話だと思います。いつの間にか【甲田】と言われるようになったと伝わります。

武田信玄愛用の【諏訪法性の兜】と【甲陽軍鑑】

甲陽軍鑑は高坂昌信が口述で作成と伝わります。



天王山公園は、地元の方々により常に清掃され、勝頼公もさぞ喜んでいる事でしょう。

【えんえんと柵木岐阜よりかつぎくる】

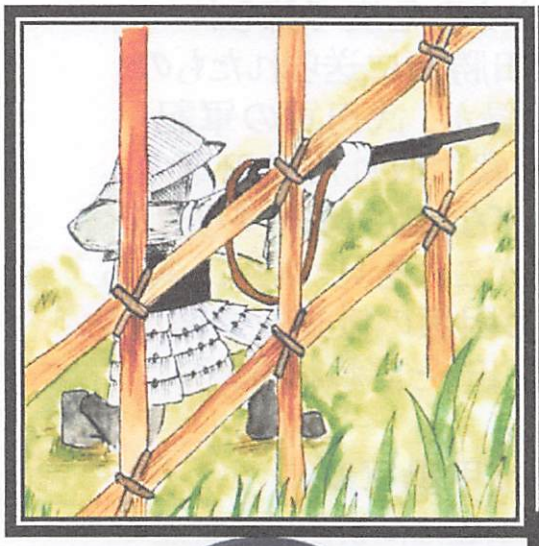
え　えんえんと柵木
岐阜よりかつぎくる

・馬防柵再現地

・織田信長は、徳川家康と結んだ【清州同盟】の履行の為、石山本願寺の敵をかたずけて、岐阜城より3万の大軍で長篠城の後詰めとして、5月18日に設楽原に到着した。軍兵一人につき丸太1本と、それを結ぶ縄を持たせて、岐阜を出発させた。武田軍の騎馬隊を制圧する秘策【馬防柵構築】の為である。
丸太は、3千丁とも云わる【火縄銃】のカモフラージュの意味を持つとも考えられている。21日の決戦までに2日半で連吾川沿いに馬防柵を構築した。

・馬防柵の効能

❶ 柵木に火縄銃を掛けることで長時間戦える。（火縄銃は重い）
❷ 敵兵（馬）への命中率が、柵木を利用することで格段に上がる。
❸ 柵内にいる軍兵が安心して戦える。（玉込め準備）（構え・発射）
❹ 連吾川がお堀で、馬防柵がお城の石垣に変わる役割を果たした。



連合軍三万八千対
武田軍一万五千
長篠設楽原は
完勝なり

え
えんえんと
柵木　岐阜より
かつぎくる

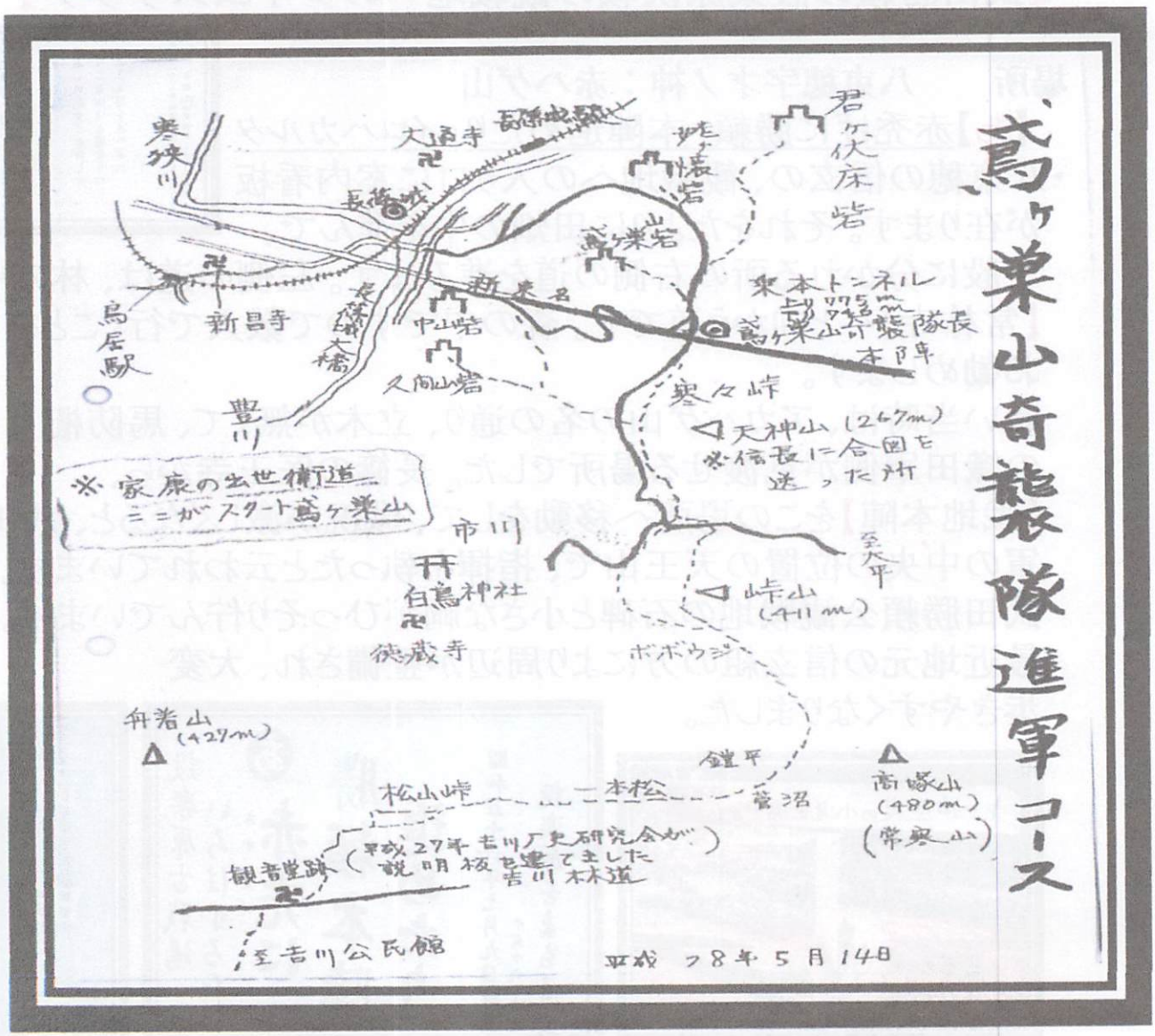
【酒井忠次の大迂回作戦】‥長篠城の攻防戦

て　手振りよくおどる　酒井のえびす舞

・信長本陣極楽寺跡
上平井　極楽寺山

・徳川家康の家臣酒井忠次は、極楽寺での軍議の席上【鳶ヶ巣山奇襲作戦】を提案したが、信長に即座に却下された。だが秘密裏に酒井忠次を総大将とする奇襲攻撃隊が編成され、極楽寺から直ちに豊川下流の浅瀬を渡り、舟着山を大迂回して、松山峠から菅沼山に到った。日づけは運命の【5月21日】の仏暁でした。酒井忠次隊は、武田五砦の背後へと迫った、かくして決戦の夜が明けた。銃声と怒号が山や谷にこだまし、武田軍は大混乱の内に大将武田信実は討死し、武田勢は、山を下り乗本村から有海原方面へと敗走した。

・奇襲隊進軍コース図　・酒井忠次の陶人形　乗本　梶村昌義氏提供



・パソコンで酒井忠次と山形県鶴岡市を検索して見たら、驚く事柄が出てきました！

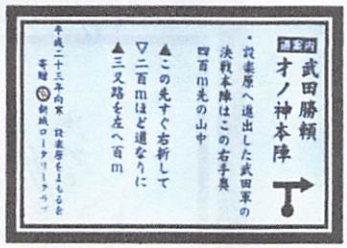
【武田勝頼観戦地才ノ神】

あ 赤禿に
勝頼本陣進めたり

・勝頼観戦地跡
八束穂 赤ハゲ才ノ神

・武田勝頼は、長篠の医王寺から、戦況が変わるごとに観戦地を移動した。決戦最後の戦時本陣地は、八束穂の【才ノ神】です。当時ここは赤ハゲ山の地名どおり、裸山で眼下に設楽原一帯の決戦場が見渡たせたと思われる。

【武田勝頼の設楽原決戦の観戦地へのタイムスリップ】

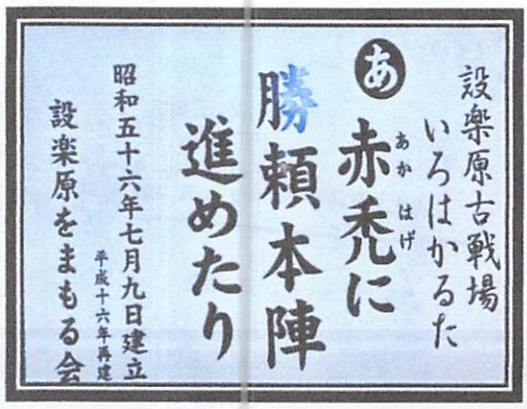


場所　　八束穂字才ノ神：赤ハゲ山

【あ】赤禿げに勝頼　本陣進めたり・イロハカルタ

・八束穂の信玄の、観戦地への入り口に案内看板が在ります。それをたよりに田畑の中を進んで、三股に分かれる所の右側の道を進みます。左側の道は、林の中を【常林寺】へと向かう道です。森の中ですので数人で行くことをお勧めします。

戦い当時は、アカハゲ山の名の通り、立木が無くて、馬防柵の織田軍側が見渡せる場所でした。長篠の医王寺から、【戦地本陣】をこの場所へ移動をして、戦況が激しくなると、武田軍の中央の位置の天王山で、指揮を執ったと云われています。武田勝頼公観戦地の石碑と小さな祠がひっそり佇んでいます。最近地元の信玄組の方により周辺が整備され、大変歩きやすくなりました。



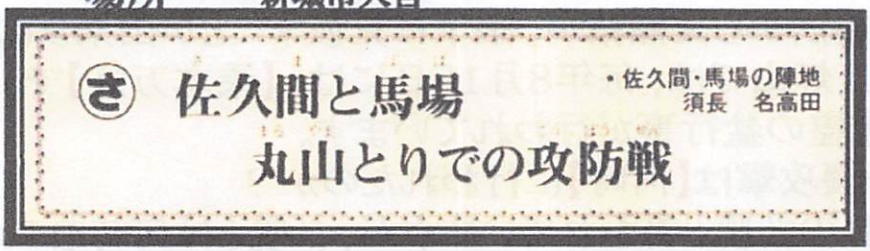
【丸 山 砦 跡 】

・設楽原の北に位置する丸山砦は、信長の家臣の佐久間信盛が、6千の兵で占拠していましたが、武田軍の馬場信房隊が700の兵で奪還をした場所で、設楽原の戦いでも、指折りの壮絶な死闘が行われたエリアです。
・当時は、丸山の広さは現在の倍の大きさであった事が記録されている。昭和になり良い盆栽用の土が取れたことから、徐々に今の大きさに成った。
連吾川沿いに上州産【矢 立 硯 】 発見の看板がある。

【丸山砦のへのタイムスリップ】：戦いの跡

石座神社の祭礼：大宮地区の笹踊➡

場所　新城市大宮



・甘利信康公墓を、馬防柵を左に見ながら、須長公民館方面に進んだ交差点の左側に在ります。現在は、小さな小山ですが、当時の丸山砦は、戦場の北側の【重要な拠点】でした。
斜面を注意しながら登ると、当初佐久間信盛・のち馬場信春の史跡案内の石柱が立っています。此処からの眺めは、設楽原の古戦場の狭さを感じ取ることが出来ます。
・ここで約5万人余りの、兵士が戦ったと思うと驚きです。
織田・徳川軍の築いた、馬防柵再現地前方に見て、左側には、武田軍が陣を張った【信玄台地】の山並みを見渡すことが出来ます。しばし、戦国の昔に思いを馳せます。
戦い当時、織田信長・徳川家康が戦勝祈願をしたと伝わる石座神社がこの先に在ります。
・丸山砦跡の近くの
石座神社と神馬小屋➡

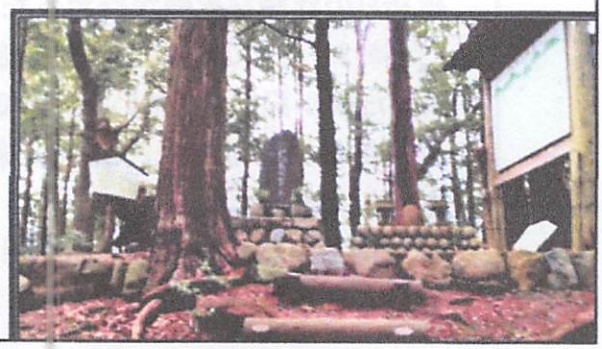
【鳶ヶ巣山砦】長篠城の攻防戦

【鳶ヶ巣山砦跡】城の真東600㍍の標高140㍍位置

㋭ 奇襲隊広瀬を渡りて鳶ヶ巣へ　・川路渡船場

・武田勝頼は、長篠城の攻撃の為の付城として、鳶ヶ巣山砦、君ヶ臥床（きみがふしど）砦、中山砦、久間山砦、姥ヶ懐（うばがふところ）砦の【武田五砦】を築いた。その一つの鳶ヶ巣山砦には、武田信実、小宮山信近らが陣を敷いた。

・5月21日早暁、徳川家康の家臣、酒井忠次軍の奇襲攻撃を受け、武田五砦は灰燼にきした。



【鳶ヶ巣山砦へのタイムスリップ】：奇襲の跡

場所　新城市字鳶ヶ巣：乗本

・乗本集落から急な斜面の、鳶ヶ巣山を登り切った場所に在ります。武田軍が築いた五箇所の付け城の【要】の役割を担いました。当時は、この場所から長篠城が、眼下に見渡すことが出来ました。

・戦場となった万灯山では、毎年8月15日には、【乗本万灯】で、戦いの戦没者の慰霊の盆行事が行われています。

・鳶ヶ巣山の奇襲攻撃は【何時】に行われたのか？
看板には21日の払暁と書かれていますが、払暁とは何時なのか、『信長公記』では、【辰の刻】とあります。
辰の刻とは、午前8時頃ですので、早朝の6時ごろに設楽原で戦闘が開始されたとしたら2時間後となります。
酒井忠次の奇襲攻撃は、武田軍を【背後】から脅かしました。

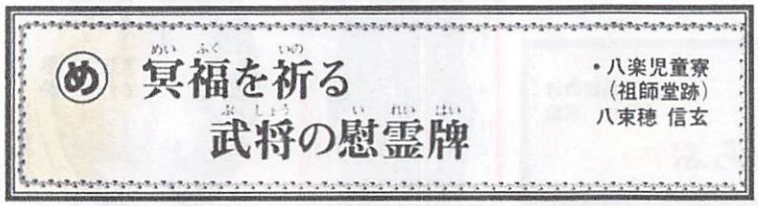
・【久間山砦】・・山の山頂に本陣跡とみられる場所と、それを現す石碑があります。往時は、久間山から川向うの、長篠城や篠場野、有海村辺りが一望でき、豊川を見張る【監視役】の役割を担っていました。

・暁の酒井忠次軍の武田五砦の急襲攻撃の成功は、戦いの勝敗に大きな役割を果しました。酒井忠次はこの戦いの【MVP】の武将です。

注意点　・鳶ヶ巣山砦から復元中山砦に向かうには、二又に分かれた道の下方向に進みます。

鳶ヶ巣山奇襲攻撃を語らずして、長篠・設楽原の戦いを語る事なかれ。

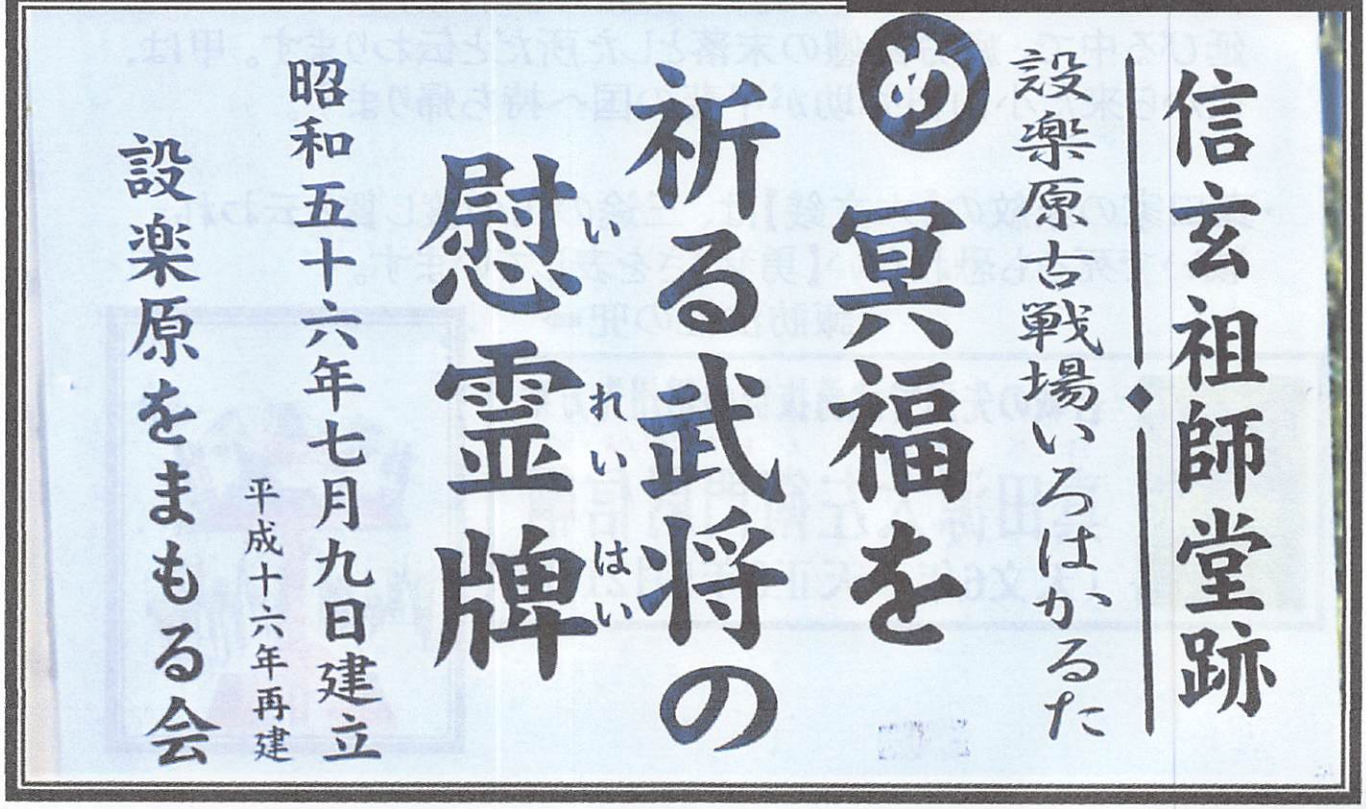
【信玄祖師堂跡・・八楽児童寮】



・長篠・設楽原の戦いでは、武田軍9，000名　織田・徳川連合軍6，000名の併せて1万5,000名の尊い命が失われました。戦いの直後から何回なく戦没者供養が行われて来ました、近年に於いては合戦350年祭後の昭和5年10月、信玄病院初代病院長牧野文斉翁は、日蓮宗に入信して【信玄祖師堂】を建て、その中に東三河数百名の会員の寄進になる、戦没者の位牌を忠魂堂に安置した。しかしこの信玄祖師堂も昭和32年に廃止され、位牌は、富士市の本願寺に祀られていた。現在は、戦いのゆかりの聖堂山勝楽寺に移管され、毎朝丁寧な読経が執り行われています。

・信玄祖師堂跡の看板は、八楽児童寮から設楽原歴史資料館へ向かう左側にひっそり建てられています。信玄祖師堂の写真と牧野文斉翁

祖師堂正面
（元信玄病院の前）



【真田信綱・昌輝公の塚】
設楽原に倒れた戦国の武人たち

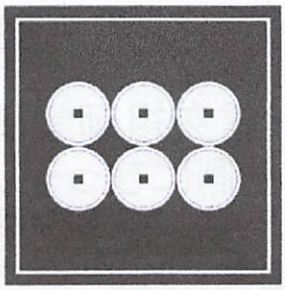
信濃松尾城主と弟

㊙ 三子山に
真田兄弟の墓ならぶ

・信綱・昌輝の碑
八束穂　宮脇

・八東穂地区の宮脇の三子山に、墓石に真田信綱・真田昌輝と仲良く両雄の名を刻んだ石碑が在ります。真田一族は東信濃の名族で、鎌原・常田の地域を従えて武田家に従っていた。・武田軍の右翼隊の馬場信房隊と共に戦い、丸山砦付近の大宮激戦地で奮戦し、その後宮脇付近で味方の脱出を助けた。

【真田信綱・昌輝公の塚へのタイムスリップ】



場所　新城市八東穂字上前田：三子山

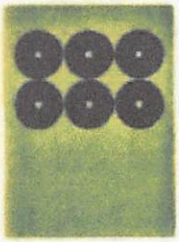
【み】<u>三子山に真田兄弟の墓ならぶ・・イロハカルタ</u>

・八東穂公民館を過ぎてから、四反田川沿いに左折し【甲田】の石標を田のあぜ道の左に見て進んだ所に在ります。

・武田軍にとり【諏訪法性の兜】は【御旗楯無の鎧】と並んで掛替えの無い宝物でしたが、それを落として敗走する程の大敗でした。【甲田】は【諏訪法性の兜】を、初鹿野伝右衛門が、戦いで落ち延びる中で、疲労困憊の末落とした所だと伝わります。甲は、後から来た小山田弥助が甲斐の国へ持ち帰ります。

・真田家の家紋の【六文銭】は、三途の川の渡し賃と云われ、戦いで死をも恐れない【勇猛】さを表しています。

諏訪法性の兜➡



合戦の先頭で武勇抜群の信州先方衆

真田源太左衛門尉信綱
（さなだげんたざえもんのじょうのぶつな）

（天文6年～天正3年5月21日）

㊀ 信玄のゆかり　・竹広　信玄塚
つきせぬこの地名

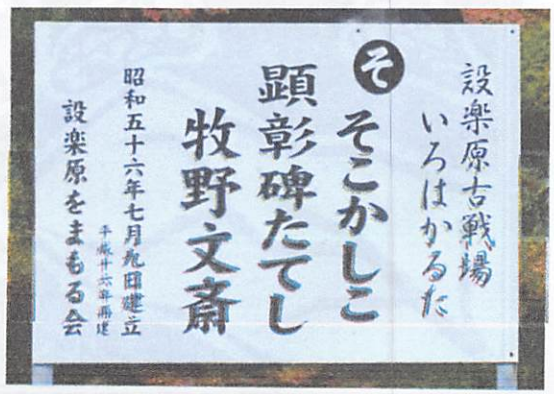
・設楽原の決戦で負けたのは武田勝頼であるが、合戦後450年の今なおこの地に残るのは、武田信玄の名前です。戦国の世でその名が高かった【信玄】は、その死後も諸国の人々に恐れられていた。
織田信長は、この機をとらえ戦没者の塚を【信玄塚】と名付け三州街道の道行く人に【武田信玄倒れる】を印象付けたと思われる。

・【信玄の町】は、将軍徳川家光の鳳来寺山東照宮造営のため、街道筋の道路の改修により、三州街道に沿った【新しい信玄の町】が出来て明治の半ばまで【伊奈街道】沿いの小宿場町としての役目をはたしていた。今でもその名残の商店の屋号が、提灯屋（峯田家）下駄屋（杉浦家）本田屋（旅館）種屋（滝川家）に残されている。

・明治になり、牧野文斎氏の信玄病院が、隆盛を極め県内外より多くの方が病院を利用したため益々【信玄の町】は賑やかになった。

＊牧野文斎翁（1868～1933）明治から昭和期の医者　当時、東三河地方で唯一の総合病院で3つの病棟があり、約100名の看護婦を要する大病院でした。大正3年に【長篠古戦場顕彰会】を設立し、自らは副会長を務めた。医療の傍ら、戦没者の供養、遺跡の保存、古戦場の史跡保護活動を進めた。現在多くの武田軍の将士の塚が、設楽原のそこかしこに在るのはこの活動に依るものです。又、信玄祖師堂、花菱座（娯楽施設）を立て、この地方の電気事業の発展に寄与するなど、信玄の地域に様ざまな貢献を残している。現在は、信玄病院跡地は、牧野文斎記念小規模公園と、住宅が立ち並んでいる。長篠古戦場顕彰会は、【設楽原をまもる会】に引き継がれている。

初代牧野文斉翁



【極楽寺跡は豊川用水建設工事で消滅】

五 絵図ひらき　軍議かさねし極楽寺

・信長本陣跡 上平井
極楽寺山

・織田信長と徳川家康は、設楽原に到着すると極楽寺で軍議を開いた。軍議の壱は、連吾川沿いの窪地に馬防柵を2キロ半に渡り築く事。弐は、家康家臣の、酒井忠次率いる武田鳶ヶ巣砦の奇襲攻撃作戦である。結果的に、この2つの作戦が功を奏して織田・徳川連合軍の勝利に繋がる。極楽寺は、この時の武田軍の戦火の中で焼失したとも、お寺特有のローソクの火事で無くなったとも伝わります。豊川用水建設時の調査では、布目瓦等が多数見つかっている。東郷中学・設楽原歴史資料館で見ることが出来る。 酒井忠次の恵比寿舞の逸話は、この時の軍議の席の事です。

五

絵図ひらき
軍議かさねし
極楽寺